

2004.3.20 北区飛鳥山博物館だより

ぼいす

vol.12



春の企画展

狐火幻影～王子稲荷と芸能

会期：2004年3月13日(土)～5月5日(祝・水)



ASUKAYAMA
MUSEUM

「狐火幻影～王子稻荷と芸能」

会期：平成16年3月13日（土）～5月5日（祝・水）

会場：特別展示室 ＊観覧無料

「毎年大晦日の晩、関東中から稲荷のお使いである狐が王子・^{しょうぞくえのき}装束まつぷるのもとに集まり、装束を改めて王子稲荷に参詣する」…王子に伝わる幻想的な狐火の伝承を、皆さんはご存じでしょうか？

かつて王子は都市と田舎の境界に位置し、周辺は田畑の広がる農村地帯でした。そして、王子稲荷が鎮座する北区岸町は、台地と低地の境、狐が好んで住むという崖線にあたります。

王子稲荷は、古くは岸稲荷と呼ばれ、すでに近世初期から関東の稲荷の棟梁として江戸の人々の信仰を集めていました。「狐火会」と呼ばれた狐火の伝承は、地誌などを通して広く知れ渡り、大晦日には狐火を見ようと夜通しで待ち構える人々もいたようです。田園風景のなか鬱蒼とした杉木立に囲まれた王子稲荷とその周辺は、狐火伝承にふさわしい舞台であり、江戸の人々にとってのマジカル・ゾーンだったと言えるでしょう。

さらに、18世紀中頃には江戸において稲荷信仰が大変盛んとなり、王子稲荷には多くの参詣客が訪れるようになりました。近隣の飛鳥山や滝野川なども行楽地として人気を高め、王子は一年中賑わいが絶えることがありませんでした。

今春の企画展では、狐火伝承に彩られたミステリアスな名所・王子稲荷と稲荷のお使い・狐をめぐって展開した様々な文化・風俗をご紹介します。なかでも、王子生まれの人気女形で「王子稲荷の申し子」と言われた二世瀬川菊之丞、市川團十郎の参詣をきっかけに作られた狐の紙人形「^{しばらくぎつね}暫狐」、王子を舞台とした芝居や落語など、芸能との関わりに注目しながら、多彩な資料を展示します。そして、そこに浮かび上がる王子という地のイメージの変遷を辿っていかれたらと考えています。

さて、春は飛鳥山で「王子詣」と洒落込んでみては？ (K)

関連イベント

- ①大江戸ビジュアル講座〈王子〉～浮世絵・端唄・落語～
3月27日（土）午後2時～4時30分
 - ②企画展ギャラリー・トーク
4月18日（日）午後2時～3時
 - ③体験講座「江戸時代の王子土産・狐の紙人形を作ろう！」
4月29日（祝・木）午前10時30分～12時
 - ④実演◆お江戸のヘア・メイキング
5月3日（祝・月）午後2時～3時30分
- ※申込方法・お切り日などについては博物館にお問い合わせください。

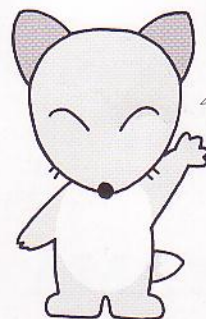


「名所江戸百景 王子装束の木大晦日の狐火」
歌川広重画（安政4年）

扉の向こうにナニがある!?

ASUKAYAMAセレクション^{ファイブ}5 ～2004～
5/20（木）～6/20（日）

3人の学芸員が、当館収蔵品の中から「これだ!!」と思う資料を、勝手気ままに? 5点チョイスして展示する企画、その名も「ASUKAYAMAセレクション5」。第3弾となる今回は、美しく華やかな大物(!?) 資料や、「こんなものもあるのか!」とビックリするような新収蔵品を出展する予定です。時代や分野を問わず、館の収蔵庫の中で今一番ホットな資料をみなさんにご覧いただくこの企画は、おかげさまで大好評をいただいております。担当者軍団もそのご期待に沿うべく、奮闘中です。緑風薫る飛鳥山にお越しの際には、是非お立ち寄りください。(洋)



観覧無料

ほいす 夢中になって、学ぶ時間を創いたい ～博物館と子どもたち～

中村 洋子

生涯学習の場として多くシニアに目を向けてきた感のある公立博物館が、学校教育における総合的学習での役割を担う場として認識されるようになってから、子どもたちのために何ができるのかを自問自答する機会が近年さらに増加しています。当館では開館当初から職員全員が「子ども達に、本物に触れる感動を知ってもらいたい」という思いを強く持ってきました。そして、博物館だからこそできる「本物に触れる」という体験を実現することに力を注いできました。その結果、誕生した企画の1つが「来て、見て、さわって！むかしの道具展」です。これは小学校3・4年生の学習単元「むかしの調べる」に対応した、展示見学と体験学習のセットプログラムで、特別展示室では昭和30～40年代に使われた民具を中心に自ら触れて調べる学習を、そして屋外及び講堂においては3つの体験コースから、1コースを学校側で選択してもらい実施します。コースは洗濯板での洗濯体験、薪で火をおこすかまど体験、自分たちで着物を着る着物体験の3つです。どれも昔の生活を知る上で必要不可欠な要素であり、なおかつ展示とリンクしたテーマとなっています。本年度の事業には区内小学校40校中32校が参加、1518名の児童が来館しました。この事業を成功裡の内に納めるには、学芸員をはじめとする館側スタッフと学校の先生との協力が欠かせません。特に担任の先生には事前に御来館をいただ

き、実践を行うことが徹底されます。先生が当日の行程を細かく認識することで児童に安心感が生まれ、本番でのスムーズな授業運営が可能となります。細かな打ち合わせによりさまざまなケースに独自に対応する事も可能です。また、事前事後学習の計画をたてる際の目安になるという声もあります。こうした大人たちの試行錯誤の中で作り上げられていく時間が、子どもたちにとって「夢中になって学ぶ時間」となります。机の上での学習だけでは味わえない本物の魅力に、目を輝かせてノートを取り、話を聞き、体を動かす、感動してくれる児童の姿を見るとき、私たちは「博物館だからできること」の確かな手応えを感じます。と同時に「博物館でしかできないこと」のさらなる実現に向けて夢中に取り組んでいこうと決意を固めるのです。



寒さも忘れてボンブで水汲み

イベントレポート

昨年の12月21日（日）に、2階ホワイエにおいて、「アンサンブル・プレマ」をお招きして、弦楽四重奏による、ミュージアムコンサートが開催されました。

「アンサンブル・プレマ」は、2002年、音楽大学を卒業した有志メンバーにより立ち上げられ、2003年8月に北とびあにおいて第一回公演を開催しました。

指揮者をおかず、メンバー一人ひとりの意見を生かし、尊重しあってアンサンブルを造ることを主旨としており、今後も弦楽アンサンブルを主体とした演奏活動を予定しているグループ



ホワイエに響く美しい調

です。

コンサート当日、第1部は当館所蔵の蓄音機とレコードによるマスカーニ作曲「カヴァレリア・ルスティカーナ」をお聞きいただき、明治末期から大正始め頃の音楽鑑賞を体験してもらいました。その後同曲の演奏を皮切りに、「G線上のアリア」（バッハ）・アイネ・クライネ・ナハトムジーク（モーツァルト）などクラシックを11曲・休憩後の第2部では、「星に願いを」（ディズニー・ピノキオより）・「川の流れるように」（美空ひばり）など、聞き慣れたポピュラーを7曲演奏していただきました。会場となるホワイエには座席を50席準備しましたが、90名以上の方々にお越し頂き、途中で座席を増やす盛況ぶりでした。

来場者からは「身近で弦楽四重奏に接することができて、指の動きや手の動きがよく見えました」「普段よく耳にする曲の演奏もあり楽しめました」などの声が聞かれました。

ミュージアムコンサートは飛鳥山博物館の催し物としては初めての試みであり、準備、会場の設営、整理券配布など、試行錯誤の連続でしたが、多くの区民の方にご来場いただき、お礼申し上げます。
(千)

クローズアップ 飛鳥山

みなさんがお花見や博物館にやってくるこの飛鳥山公園。その地面の下に古の人々がくらしていた痕跡が眠っているのをご存知ですか？そう、この飛鳥山は全体が遺跡なのです。古くは旧石器時代から、縄文時代、弥生時代と人々はそこに暮らし、古墳時代にはお墓も作られていたことが発掘調査であきらかになっています。縄文時代のムラには貝殻が捨てられていました。なんでこんな所に貝が？そう、今から約6000

いにしえ 足元に眠る古の暮らし

年前の飛鳥山の崖下には海が広がっていたのです。また、弥生時代のムラは大きな溝で囲まれた環濠集落であったこともわかっています。普段は憩いの場である飛鳥山も、一尺（約30cm）ほど下には古代の息吹が封じられています。さしずめ、発掘調査はそれを現代に解き放つ **Special・Key** といえるでしょう。



▲住居跡に捨てられた貝



▲ハマグリがとっさり。



▲地中から顔を出した縄文土器。



土器は
常設展示室
で展示中！

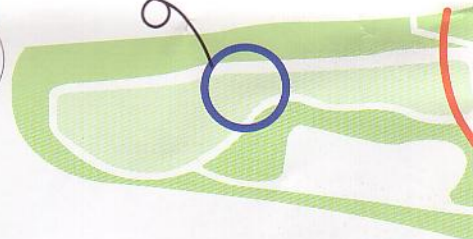
今も児童公園脇に残る飛鳥山1号墳。知ってました？



飛鳥山1号墳

縄文時代

縄文時代のムラ



▲飛鳥山公園

インタビュー

発掘調査 の 思い出



発掘調査時の一コマ（右より3人目が片岡さん）

今回は飛鳥山遺跡の発掘の様子を、当時、発掘調査に参加して下さった片岡聡恵さんにお聞きしました。片岡さんは子どもの頃から滝野川にお住まいで、現在は飛鳥山博物館で受付のお仕事をなさっており、飛鳥山にはなじみの深い方です。

F：片岡さんは滝野川にずっとお住まいですが、子どもの頃にはよく飛鳥山に遊びに来られたんですか？

片：もう、ずっとです。グラウンド（今の噴水広場で）でよく遊んでいました。そのころ、展望台のあたりで貝が見つかったと聞いた覚えがあり、飛鳥山が遺跡であることは知っていました。

F：その後、平成五年になって公園整備のための発掘調査がはじまり、片岡さんはそのはじめての頃から調査に参加いただいています。きっかけは何だったのでしょうか？や

はり遺跡に興味があったんでしょうか。

片：ちがうんです！興味はなかったんです（笑）。友達に誘われて…。

F：発掘をはじめて経験したときの印象はどうでしたか？

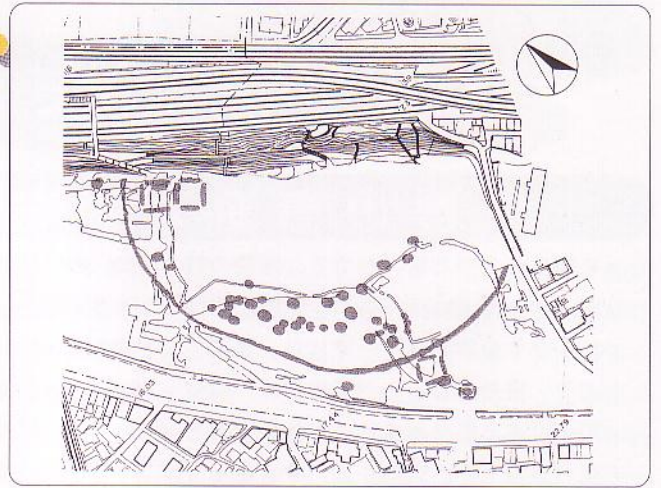
片：はじめは午前中だけの参加で、冬の寒い頃だったので朝来てまず霜柱をとって焼く、次の日も次の日も…。とにかく毎日暑取りばかりをやっていたのをおぼえています。他にも土が硬かったりとか、柱の穴だと思って掘っていた穴がゴミ穴だったり…。

F：大変でしたね。でもそのうち何か発見したりしたのではないですか？

片：最初に自分の手で発掘したのはやはり土器でした。その時はうれしかったですよ。宝くじにあたったような感じでした。でも一番感動したのは、今博物館が建っている敷地を広く発掘したときですね。古くからのムラをそのまま見た気持ちになって素直

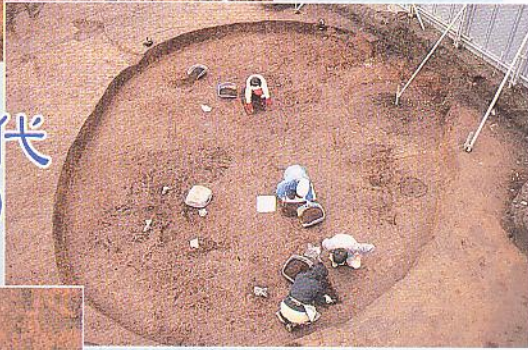


◀今の博物館ゾーンからは
弥生時代の家々の跡が
見つかった。



弥生時代のムラ。溝内側の小判形が住居跡

弥生時代 (住居)



▲9m近い、大きな竪穴住居跡



▲真っ赤にぬられた壺

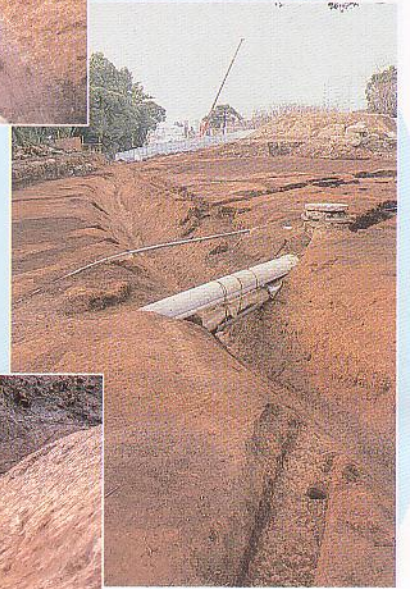


大きな住居は
こんな感じ。



▲環濠には土器が
捨てられていた。

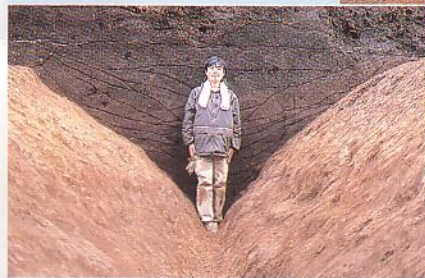
弥生時代 (環濠)



▲現在博物館が建っている敷地、
長く長く環濠が続いていた。

弥生時代の環濠

いろんな時代の
人々のくらしの
様子が発掘で
わかるんだよ。



▲環濠の深さは約2m。

北区飛鳥山博物館

でしたよ。

F: さて現在、遺跡の上に博物館が建設され、土器や石器などその時の出土品が展示されています。お客さんにはよく発掘の話はされるのですか？

片: ええ。今私たちが立っている展示室の中をちょうど環濠が通っていたとお伝えすると、大変驚かれます。

F: 最後に、お客さんに飛鳥山博物館のアピールを一言おねがいします。

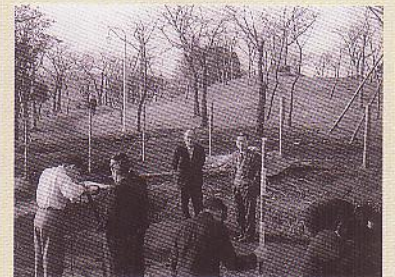
片: 飛鳥山博物館は展示をみるだけでなく、本を探したり、ティータイムを楽しんだり、いろんなことを楽しめる多目的博物館です。みなさん、気軽に博物館に遊びに来てください。

片岡さんには、お忙しいところ快くインタビューに応じていただきました。本当にありがとうございました。(F)

発見と発掘の足跡



飛鳥山遺跡の発見は古く、昭和9年頃に駒込在住の篠崎四郎さんが土器を拾ってその存在がわかりました。昭和12年には公園の中央部をグラウンドにするということで、土取り工事を行いました。その時に珍しい土器や石器が出土したそうです。その時にも篠崎さんは駆けつけて土器や石器を収集し、崖断面に現れた住居などを観察したそうです。そのことを雑誌で紹介し、広く学会にも知られるようになりました。その後、園内の整備の時に偶然に出土した土器などを、区の土木課勤務の五十嵐重作さんが収集していたり、昭和30年代には王子工業の教諭であった宇野信四郎先生が中心になって小規模ながら発掘調査が行われました。その時にも貝殻が出土したそうです。その後平成5年から公園再整備に伴う発掘が行われ、平成6年には博物館建設に伴う発掘調査が行われました。



昭和30年代の調査スナップ

洪水と浮間ヶ原と桜草

J R 埼京線 浮間船渡の駅を出るとすぐに、都立浮間公園が目に入ります。公園の浮間ヶ池は旧荒川の一部を残したものです。かつて、浮間の旧荒川付近の湿地帯は浮間ヶ原と呼ばれ、萱や桜草の群生地でした。浮間・志茂・豊島など区内の低地部は、旧荒川の洪水に度々みまわれ大きな被害を受けましたが、洪水が上流から運んできた肥沃な泥は、浮間ヶ原に萱や桜草



可憐な浮間の桜草

の群生地を作る揺りかごの役目も果たしたのです。桜草は、20cm位の茎に5弁のピンクや白等の可憐な花をつけまです。広く日本の湿地帯に自生し、観賞用の植物として江戸時代から愛好されてきました。浮間ヶ原の桜草は、明治時代の鉄道開通とともに多くの人を引きつけ、昭和5年に刊行された『岩淵町郷土誌』では「季節には見物人が赤羽駅から陸続として絶えぬ有様で、原には幾軒もの茶店が建ち橋の無い頃には臨時の渡船場を作る程であった」と賑わう様子を記しています。しかも、昭和初期に荒川放水路が完成し、洪水で上流の泥が運ばれなくなったこと、関東大震災で壊れた家を建てるための壁土用に河原の土を大量に採取したことなど、環境が大きく変わったことで浮間ヶ原の桜草は次第に姿を消してい



都立浮間公園

きました。こうした中、昭和30年代から、失われた浮間ヶ原の桜草を復活させる取り組みが地元の有志により始まり、昭和37年に保存会が結成されました。現在、浮間公園の隣には桜草を育てる「浮間ヶ原桜草圃場」があります。この圃場で大切に育てられた桜草は、毎年4月中旬から下旬にかけて一般公開が行われ、春の息吹を私たちに伝えてくれます。(隆)

明治5年の王子大堰

写真に見る明治5年の時

当館には THE FAR EAST・1872年12月1日号という新聞が所蔵されています。この新聞は明治初期の異色英人落語家として有名な快樂亭石井ブラックの父・John Reddie Blackによって発行されたものです。ブラックの新聞・THE FAR EASTは写真製版技術が確立する前の時代ならではの、コロジオン湿板写真を紙面に直接、張り付けるという手法で新聞にビジュアル表現を導入したもので、グラデーションとコントラストの明確な写真は被写体を明確に捉えており有益な地域情報に富んでいます。幕末維新期の写真は撮影年代不詳のものが多い中で、この写真は新聞の即時性から見て撮影日時が発行日と近接していると考えられる貴重なものです。原題には「王子の滝」とありますがこれは王子大堰です。『新編武蔵風土記稿』によると「石堰王子川ノ内、金輪寺峡下二設ク」とあります。写真を見ると、嘉永3年(1850)と万延元年(1860)の二度の火災で失われた將軍御座所・御張出の基盤部分とおぼしき痕跡も、崩壊した状態ながら見えています。王子大堰はこの御座所下付近に設置され、画面左端の石神井川上流付近には棒杭が立ち、若干の段差を石組みで作り水量を上流部分で調節していることが水流から判ります。さらに堅牢な石組みで川幅を狭ばめ、2段程度の段差で滝となって下流に向かっていきます。石堰営繕のために下部には割石を積み上げて、水圧から堰を保護するために河川部分に切石を据え3本の材木で補強していることも良く表現されています。激しい水音が伝わる一枚です。(石)



Waterfall at O-JEE from the tea-house garden

博物館インフォメーション

緊急募集！ 黒髪自慢求む!!

博物館では春の企画展にあわせて、5月3日(祝)に「実演◆お江戸のヘア・メイキング」を行う予定でいます。江戸中期の髪型を実際に結って再現するものです。そこで、この髪結いのモデルをボランティアでやっていただける方を探しています。一度本格的な日本髪を結ってみたいと思っている方! あなたの自慢の黒髪を江戸の髪型にしてみませんか?

申込条件: 黒髪ストレートヘアで、背中の中央に達する長さ、前髪が短くない方(最低口元まで)。シャギー、段カットのない方。

☆我こそはと思う方は、髪の長さがわかる写真を添えて郵送で北区飛鳥山博物館クボノまで。4月15日(木)まで受付。



せきれい髪に「瀬川ぼうし」をつけたスタイル。イベントではこのスタイルが燈籠髷を結います。

お得な飛鳥山情報

王子駅の南口改札を出て右に折れるとすぐに長い階段があり、線路をまたぐ跨線橋があります。この橋は王子駅と飛鳥山公園を結ぶ架け橋で、朝夕に多くの通勤や通学の人たちがここを通ります。もちろん博物館に行くためのお客さんも。でも、この橋よく見たことありますか? 実は古いレールでできているんです。聞くとところによると「中路ブレースドリフ固定アーチ」という形式の橋だそうです。しかも、作られたのが大正14年で、今年で築79年、来年で満80歳を迎えるんです。いつもは下を向いて急ぎ足で渡る橋も、ゆっくり歩いてその歳月を感じ取ってみてはいかがですか。(直)



飛鳥山への歴史の架け橋

ミュージアムグッズに仲間が増えます!

ミュージアムバッジと一筆箋が仲間入り! 飛鳥山博物館ならではのオリジナルグッズです。どんなデザインかはおたのしみ!



バッジの種類も色々!

燻蒸のため6月29日(火)~7月2日(金)の4日間をお休みいたします。

博物館の大切な資料を害虫から守るため燻蒸を行います。人も燻蒸しては困るので、博物館は休館とさせていただきます。よろしく願いいたします。

お客様の声

館の催し物に参加いただいた方からの“ほいす”をご紹介します。

第7回遺跡探訪「常陸の壁画古墳を訪ねる」より

特別に公開された虎塚古墳の壁画を見ることができて嬉しかったです。今度は福島県の清戸迫横穴墓の壁画を是非見たいですね。そして、いつか九州の装飾古墳を...。(区内50代)

鮮やかな赤がほの暗い石室の中に浮かび上がって、とても感動的でした。それにしても九州は... いったらいいですね。(編)

第3回中級考古学講座「考古学を学ぶ3-土器のはなし」より

土器の現物を見ながら話が聞け、また、手で触れることができたので、写真だけではわからないことが良く理解できました。次は上級へと進んでいただけるとありがたいです。(区内50代)

資料を見て、実際に触ってもらいながらの講座が開けるのが博物館の真骨頂です。

これからもどしどし資料が触れる講座を開いていきたいと思います。(編)

講座「笑いの中に見る江戸」より

落語が好きで、落語の笑いの原点とほとんどのか興味本位で参加しました。江戸時代に笑い本がかなり出ていたとは聞いていましたが、こんなにあるとはビックリ! 落語とのからみかもう少しあると嬉しかったかな?!と自分本意に思いました。(それなら落語の講習会へ参加しろ? ゴモットモ!) (区内50代)

そんなことはないですよ。落語には「王子の狐」もありますし、博物館で落語なんというのもいいですね。ということで春の企画展にあわせて大江戸ビジュアル講座を3月27日に行くことになりました。※申込は3月15日で締め切らせていただきました。あしからず。(編)

学校対応展示&体験学習「来て、見て、さわって! むかしの道具」より
(学校見学)

3年生の子どもたちに合わせて民話や昔話なども加えたとてもわかりやすい名解説に、「なるほど!」とうなずきながら聞き入っていました。石臼の使い方も丁寧に教えていただき、せっかく体験と共に「今日の勉強、楽しかったね!」と大満足の子もたちでした。ありがとうございました。(滝六小の先生)

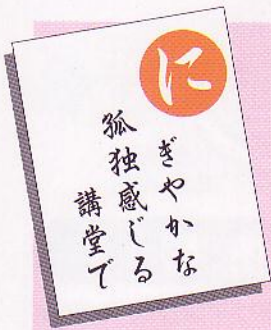
説明する我々もあの手この手でさまざまな工夫をしています。モットーはよりわかりやすく、より楽しく、より心に残るように!(編)

(一般見学)

孫といっしょに見学しました。自分が子どもの頃に目にしていた物、使っていた物を目にし、なつかしく、そして今は便利になったなあ実感しました。孫への説明も楽しかったです。(50代)

たくさんのお孫さんにお孫さんに教えてあげてください。(編)

ひきうすがほしい!(9歳)
あげない!(編)



学芸員リレーエッセー

博物館いろは歌留多

◆熊さん：ねえご隠居、最近生涯学習っていうんですかい、博物館やカルチャースクールなんかじゃずいぶん催し物が増えやしたね。あたしなんか、「朝（あした）に道を聞いて夕べに裏道を調べ翌朝には横道にそれる」っていうのが性にあってますがねえ。

◆ご隠居：そうひねくれるんじゃない。まあ生涯学習といえば聞こえは良いが、一生勉強という意味じゃ世の中きつくなったもんだ。さて花の飛鳥山は北区飛鳥山博物館という所は、よその館に比べてとにかく講座の数が多いんだけどね、覗いたことはあるかい。

◆熊さん：あそこの学芸員の連中は開館以来イケイケ・ドンドンの絶好調でいるんな講座をやらかすんで、ちょいとこの辺じゃ有名でやんす。マイク持つと人格変わるらしい。

◆ご隠居：あんなに講座を口ハでやっちゃ民業圧迫で、こまったもんだ。けどこのあいだ学芸員が言ってたけどね、ウチのお客様は静かに話を聞くのはいいけど、積極的にお客さん同士で学習活動をするには、ちょっとシャイなんじゃないかってヌカスのだけど、実際、講座を消費するだけじゃなくグループ作って一緒に学ぼうというのもいいもんだよね。

◆熊さん：そんなら皆で談義横断、議論百出。学芸員を凹ましてやろうじゃないですかい。

◆学芸員：私のお腹を凹ませてくれるんですか、大歓迎です。ご隠居ニューカマーの皆さんって団塊の世代なんですよ、これからはサロンからギロンの時代になるかもね。にぎやかに友達つくろう飛鳥山。とにかくまあ、仲良く仲良く・・・してねっ。

(異史蔵鷹栖家)

平成16年度の主な催し物

4月～6月

- 春の企画展「狐火幻影」(～5月5日)
- 講座「中世入門講座Ⅱ」
(4月3日・10日・17日)
- スポット展示「セレクション5 2004」
(5月20日～6月20日)
- 講座「第5回新聞から読む考古学2004
パート1」(5月8日)
- 講座「絵本江戸土産を読む」
(5月22日・29日・6月5日)
- 講座「笑いの中にみる江戸パート2」
(6月19日・26日)

7月～9月

- イベント「夏休みわくわくミュージアム
2004」(7月18日～8月31日)
- 講座「江戸名所図会を読む」
(7月3日・10日・24日)
- 「人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家」展
(9月11日～10月11日)
- 講座「第6回新聞から読む考古学2004
パート2」(9月18日)

10月～12月

- 秋の企画展「赤羽台横穴墓群」
(10月23日～12月5日)
- 講座「熊野学講座」(10月16日)
- 講座「第2回はじめての北区めぐり」
(10月23日・30日・11月6日)
- 講座「鎌倉探訪」(11月14日・21日)
- 講座「第8回遺跡探訪 横穴墓を訪ねる」
(11月20日・23日・27日)
- 講座「浮世絵講座」(12月4日・11日)

1～3月

- 学校対応展示&体験学習「来て、見て、さわって！昔の道具」
(1月6日～2月27日)
- 講座「第7回新聞から読む考古学2004
パート3」(1月29日)
- 講座「第4回中級考古学講座」
(2月27日・3月6日・13日・20日)
- 春の企画展「リッチモンド王子」
(3月18日～5月8日)

催し物名は全て仮称です。

利用のご案内

【開館時間】

午前10時～午後5時
(有料の展示室への入場は午後4時30分まで)

【休館日】

毎週月曜日(国民の祝日・振替休日
の場合は開館)
年末年始(12月28日～1月4日)
国民の祝日および振替休日の翌日
(土曜・日曜日の場合は開館)
このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
小・中・高	100円	80円	240円

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をごらんになれます。



・JR京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
 ・営団地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
 ・都電荒川線 飛鳥山停留所より徒歩4分
 ・都バス 草64、王40系統 飛鳥山停留所より徒歩5分

編集後記

“ぼいす”12号をおとどけしました。いかがでしたでしょうか。今号は華やかに表紙と特集記事をカラーにしました。ところで飛鳥山博物館の誕生日ってご存知ですか？3月27日なんです。

今年で満6歳になりました。人間でいうとようやく小学校入学です。まだまだみなさまから学ぶことの多い博物館ですが、今後ともよろしく願いいたします。

北区飛鳥山博物館だより ぼいす Vol.12

- 発行 平成16年3月20日
- 編集 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL.03-3916-1133
- 発行 東京都北区教育委員会
〒114-0022 東京都北区王子本町1-2-1
TEL.03-3908-1111 (代)
- 印刷 文明堂印刷株式会社